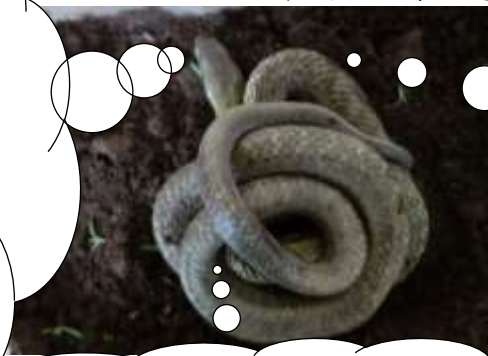


花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキュメント4

国立市立国立第七小学校

平成28年6月29日 NO.28 (328)

おれはアオダイショウ
さまだ。おれさまのこ
とをきれいな子もいる
からと、ちょっと小さ
めの写真にしたんだそ
うだ。でもおれって、
けっこうイケメンさ。



でもよ。もう少し
かっこよくとっ
てほしかったな。

フッタ博士がおれの家を作っ
てくれたんだ。ありがとう。



花ちゃん 「これは、本物のヘビですね。」

オー君 「これが、池田くん兄弟がもってきてくれた、アオダイショウですね。」

モンタ博士「そのとおりだよ。身近なヘビとしては、8種類ほどいるそうなんだ。つまり、アオダイショウ・シマヘビ・マムシ・ヤマカガシ・ヒバカリ・ジムグリ・シロマダラなどだね。」

花ちゃん 「それぞれどんな特徴があるのですか。」

モンタ博士「毒のあるヘビは、マムシとヤマカガシだね。それ以外は、自分で調べてみようよ。大切なことは、ヘビって、どんな生き物なのかを知ることさ。みんなでどんな共通点があるかを考えよう。」

花ちゃん 「わかりました。つまり、ヘビを科学するんですね。」

モンタ博士「そうそうそのとおり。ヘビの共通点って何だろう。」

オー君 「みんな足がないよ。足がないのに動くんだ。よく考えると不思議だね。」

花ちゃん 「どうして、ヘビは動けるのですか。」

モンタ博士「それはね、ヘビのおなかに腹板という大きなうろこのようなものがあるんだ。それを動かしながら、右や左に体をくねらせながら進むということさ。」

オー君 「なーるほど。それで足がなくても動くことができるんですね。ところで、モンタ博士は、小さい時からヘビが好きだったのですか。」

モンタ博士「よく聞いてくれたね。本当はその反対で、ヘビは苦手だったのさ。ところがある日、お友達が、一步下がってみるのではなく、一步踏み込んでみるといいよと言われたんだ。それから、もう怖くなくなったのさ。これが、ヘビの『体験談その1』さ。」

花ちゃん「何ですか。その体験談というのは？」

モンタ博士「ヘビとのおもしろ体験さ。二つ目は、ヤマカガシがヒキガエルを飲み込もうとしているのを見たんだ。これは迫力あったね。」

オー君「へえー。すごいなー。ぼくも見たかったな。」

モンタ博士「そんなチャンスはあまりないものさ。三つ目の体験談は、ある日、マムシをチョウをとる網で採ってね、おうちに持ち帰ったのさ。車の中で脱走されては困るので、網をひもでしっかりしばってテープで止めて持ち帰ったんだ。」

花ちゃん「それで、それで・・・。」

モンタ博士「おうちに持ち帰ったら、『すぐ！捨ててきて！』とおこられてしまったのさ。」

オー君「そりゃ、だれでも驚くし、こまったモンタ博士ですね。」

モンタ博士「そのマムシを捕まえる時に気がついたけど、マムシはクサリヘビ科というヘビの仲間で、しっぽをふって『ガラガラ』と音をたてるのも聞いたよ。」

花ちゃん「四つ目の体験というのは、どういうものですか。」

モンタ博士「これがまたおもしろかったね。ある日、沢沿いを歩いていたら、体の真ん中だけがめちゃくちゃ太っているヘビを見たんだ。」

オー君「そういうヘビもいるんですか。」

モンタ博士「そうではないんだ。ネズミかカエルを飲み込んだばかりのヘビだったのさ。それから、五つ目は、ある秋の夕方、シマヘビを見つけたけど、そのヘビがスローモーションのようにとってもゆっくり動くんだった。後でわかったけど、昼間はあったかなくても、気温が下がりすばやく動けなくなったヘビだったのさ。」

へびのように足のないのに動く生き物

ミミズも手足のない生き物ですが、きちんと動きます。実はミミズには毛があり、これを出したり入れたりして、ひっかかりを作り移動します。なお、この毛の事を剛毛といいます。また、カタツムリも足がないのに動きます。これはカタツムリの歩いている様子を裏側見るとわかります。よく見ると、後ろから前に波立っているのがわかります。カタツムリは波のような動きで前に進むのです。この歩き方を進行波といいます。